

協議事項①

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

1. 事業評価の目的等

みやま市地域公共交通活性化協議会が策定する「生活交通確保維持改善計画」は、国の地域公共交通確保維持改善事業の支援を受けて進めているものです。該当する事業については、毎年度、協議会において事業の実施状況の確認、目標達成状況等の事業評価を行うこととされております。

生活交通確保維持改善計画に位置付けられた補助対象事業について、事業の実施状況の確認、目標達成状況等の評価を行うことによって、補助対象事業がより効果的、効率的に推進されることを目的としています。

2. 事業評価の流れ

①「生活交通確保維持改善計画」…平成29年8月17日協議会にて策定

②事業実施…実施期間：H29.10.1～H30.9.30

③自己評価（一次評価）…平成31年1月に運輸局に報告

※今回ご審議いただく内容になります。

④二次評価…各地方運輸局等に設置された第三者評価委員会において、一時評価の結果に対し、客観性・妥当性の検証及び今後に向けてのアドバイスを受けます。

3. 「地域内フィーダー系統関係」一次評価について

第4回協議会（平成29年8月17日開催）において承認いただいた、

「生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統確保維持計画）」に基づき運行を行ったコミュニティバス9路線14系統についての事業評価です。

「③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況」については、本事業評価が初回となるため、その旨を記載しました。

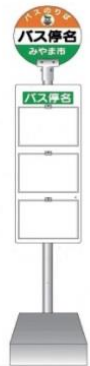
「④事業実施の適切性」については、自然災害や事故などのトラブルもなく、計画通り運行することができたため、全ての路線についてAと評価しました。

「⑤目標・効果達成状況」については、目標を達成したものはAとし、目標を達成できない点があったものはB、目標を達成できなかったものをCと評価しました。

概要



コミュニティバス「くすっぴー号」



●運行の主体 みやま市

本市の交通状況は、市中央部に3つの駅を有するJR鹿児島本線が南北に横断し、その西側を2つの駅を有する西鉄天神大牟田線が併走している。また、市東部には九州新幹線が走り、筑後船小屋駅が隣接している。バス路線としては、堀川バスが1路線(瀬高・柳川線)のみ、JR瀬高駅から隣接する柳川市まで運行している。市では、平成20年4月より高齢者や障がいがある方等を対象に、生活交通手段の確保を目的に、福祉バスを運行していたが、誰もが利用可能な生活交通手段を求める意見が市民より多く寄せられていた。そのため平成30年3月より定時定路線型コミュニティバス「くすっぴー号」(市町村有償運送)の運行を開始した。

基礎データ

合併状況:平成19年1月に瀬高町、山川町、高田町が合併
 人口:37,852人(平成30年3月末現在)
 面積:105.21平方キロメートル
 過疎地域等指定:過疎
 高齢化率:35.7%(平成29年9月30日時点)
 系統数:コミュニティバス9路線14系統
 運行便数:1日2便~6便
 自治体負担額:H27(0千円)、H28(0千円)、H29(0千円)
 協議会開催数:協議会 年3回(H30年度予定)

計画、目標(Plan)

誰もが利用可能な定時定路線型コミュニティバスを市内全域で運行させ、市民(主に高齢者等)の日常生活における移動手段を確保する。運行にあたっては、路線バスや鉄道など既存の公共交通機関とも連携を図りながら、各地区と医療機関、商店などの生活目的施設、市役所などの公的機関を結び、利用しやすい公共交通ネットワークの形成を目指す。

生活交通確保維持改善計画等の取組み(Do)

- ・平成30年3月より定時定路線型のコミュニティバス6台(26人乗りマイクロバス2台、12人乗り大型ワゴン3台、13人乗り大型ワゴン1台)の運行を開始し、誰もが利用できる生活交通手段の確保を図った。
- ・旧福祉バスの運行ルートを中心に、新たに経由地を増やした。また、車両を増台し、平日に加えて、土曜日と祝日も運行しサービスを拡充した。
- ・広報誌での特集記事や全世帯への時刻表配布、ホームページでの情報発信、老人クラブ総会や地域の助け合いフォーラムでの利用呼びかけなど利用促進のための取組みを行った。

実施状況、目標の達成(Check)

○コミュニティバスの1便当たり乗車人数

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| ・水上・本郷線 7.16人(目標:3人) | ・山川・瀬高線① 10.50人(目標:7人) |
| ・清水・上庄線 2.35人(目標:3人) | ・山川・瀬高線② 1.69人(目標:2人) |
| ・瀬高・高田線(太神・岩田経由) ①3.26人(目標:4人) | ・山川・瀬高線③ 1.67人(目標:2人) |
| ・瀬高・高田線(太神・岩田経由) ②2.55人(目標:4人) | ・高田南部・西部線① 2.77人(目標:3人) |
| ・高田・瀬高線(江浦・浜田・大江経由) 3.66人(目標:5人) | ・高田南部・西部線② 3.40人(目標:3人) |
| ・高田・瀬高線(国道209号経由) 7.58人(目標:8人) | ・山川・高田線(亀谷・竹飯経由) 2.18人(目標:3人) |
| ・高田・瀬高線(国道209号経由) 0.08人(目標:2人) | ・山川・高田線(田浦・田尻経由) 1.51人(目標:3人) |

○14系統中、目標達成は3系統、目標未達成は11系統であった。
 山川・高田線(田浦・田尻経由)が特に少なく、目標の5割程度だった。

○達成しなかった要因:利用促進の取組みを行ったが、福祉バスのイメージが強く、高齢者以外の利用が伸びなかった。

今後の課題、対応(Action)

- 利用者のほとんどが旧福祉バスを利用していた高齢者であるため、旧福祉バスを利用していなかった人への更なるPRを行いコミュニティバスの利用を促進する。
- 地域住民、利用者の声を聞きながら、利用状況の分析を行い、利用しやすい運行ができるように検討し、利便性の向上を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年 1月10日

協議会名:みやま市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
みやま市 水上・本郷線	瀬高町の水上～清水～上庄～ 本郷地域を運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 【目標】3人/便 【実績】7.16人/便 目標比+4.16人 目標達成した。	現在の利用状況を維持できるよう引き続きコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。
みやま市 清水・上庄線	瀬高町の清水～水上～本郷～ 上庄地域を運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 【目標】3人/便 【実績】2.35人/便 目標比-0.65人 目標達成にいたらなかった。	旧福祉バスと利用者数はあまり変わらないが、毎日運行となり便数が増えたため、便あたりの利用者数が目標より少なかった。福祉バスのイメージが強く高齢者以外の利用が伸びなかったと考えられる。新たな利用者を開拓するため、今後も更なるコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。なお、水上・本郷線に引き続き同じ車両が、運行しており、水上・上庄線で乗車して、清水・上庄線での降車が多い。
みやま市 瀬高・高田線 (太神・岩田経由①)	瀬高町～高田町を太神・岩田 地域を経由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 【目標】4人/便 【実績】3.26人/便 目標比-0.74人 目標達成にいたらなかった。	福祉バスのイメージが強く高齢者以外の利用が伸びなかった。新たな利用者を開拓するため、今後も更なるコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
みやま市 瀬高・高田線 (太神・岩田経由②)	瀬高町～高田町を太神・岩田 地域を經由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 【目標】4人／便 【実績】2.55人／便 目標比-1.45人 目標達成にいたらなかった。	福祉バスのイメージが強く高齢者以外の利用が伸びなかった。新たな利用者を開拓するため、今後も更なるコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。
みやま市 高田・瀬高線 (江浦・浜田・大江経由)	高田町～瀬高町を江浦・浜田・ 大江地域を經由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 【目標】5人／便 【実績】3.66人／便 目標比-1.34人 目標達成にいたらなかった。	旧福祉バスと比較すると利用者数は増えているが、福祉バスのイメージが強く高齢者以外の利用が伸びなかった。新たな利用者を開拓するため、今後も更なるコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。
みやま市 高田・瀬高線 (国道209号経由)	高田町～瀬高町を国道209号 を經由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 【目標】8人／便 【実績】7.58人／便 目標比-0.42人 目標達成にいたらなかった。	・旧福祉バスで隔日運行だった他の系統が毎日運行となったため、利用者が他の系統を利用するようになったと考えられる。 ・沿線高齢者人口も多く、利便性の高い路線であるため、新たな利用者を開拓するため、今後も更なるコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
みやま市 高田・瀬高線 (国道209号経由)	新船小屋からJR瀬高駅間を運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C 【目標】2人／便 【実績】0.08人／便 目標比-1.92人 目標達成にいたらなかった。	新船小屋からJR瀬高駅間の4.5kmを山川・瀬高線③の最終便への接続のため運行している。そのため、利用者は限られている。JR瀬高駅までの利用や山川町から老人ホーム楠寿園へ訪問される方の帰宅のための利用ニーズがある。
みやま市 山川・瀬高線①	山川町の真弓公民館～瀬高町の市立図書館を国道443号を經由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 【目標】7人／便 【実績】10.50人／便 目標比+3.50人 目標達成した。	車で20分の距離を40分から60分以上かかる便もあるため、時間短縮のため利用状況の把握及び分析を行い利用しやすい運行を目指す。
みやま市 山川・瀬高線②	山川町の市役所山川支所～瀬高町の市立図書館を国道443号を經由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C 【目標】2人／便 【実績】1.69人／便 目標比-0.31人 目標達成にいたらなかった。	夕方の帰宅者向けの運行をしており、定期的な利用者がいるが、利用が限られている。運行範囲を絞り快速的な運行をしているが、山川・瀬高線①と停車するバス停が違うため分かりにくく利用し難い可能性がある。利用状況の把握及び分析を行い利用しやすい運行を目指す。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
みやま市 山川・瀬高線③	瀬高町のJR瀬高駅～山川町の真弓公民館を国道443号を經由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C 【目標】2人／便 【実績】1.67人／便 目標比-0.33人 目標達成にいたらなかった。	JR瀬高駅からの山川方面への帰宅者向けの運行をしているが、利用者が少ない。山川・瀬高線②と同様に運行範囲を絞り快速的な運行をしているが、同様に山川・瀬高線①と停車するバス停が違うため分かりにくく利用し難い可能性がある。利用状況の把握及び分析を行い利用しやすい運行を目指す。
みやま市 高田南部・西部線①	高田町の南部及び西部地域をあたご苑から市役所高田支所を經由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 【目標】3人／便 【実績】2.77人／便 目標比-0.33人 目標達成にいたらなかった。	僅かに目標に届かなかったが、利用が増えている。引き続きコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努め目標達成を目指す。
みやま市 高田南部・西部線②	高田町の南部及び西部地域をヨコクラ病院前から市役所高田支所を經由しJR渡瀬駅まで運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 【目標】3人／便 【実績】3.40人／便 目標比+0.40人 目標を達成した。	現在の利用状況を維持できるよう引き続きコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。
みやま市 山川・高田線 (亀谷・竹飯経由)	山川町～高田町を亀谷・竹飯地域を經由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 【目標】3人／便 【実績】2.18人／便 目標比-0.82人 目標達成にいたらなかった。	旧福祉バスと比較すると利用者数は増えているが、毎日運行となり便数が増えたため、便あたりの利用者数は目標より少なかった。沿線の高齢者人口は少ないが、H29年の調査で利用者の多くの利用頻度は、毎週利用となっており、ニーズがあるため、今後も更なるコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
みやま市 山川・高田線 (田浦・田尻経由)	山川町～高田町を田浦・田尻 地域を経由して運行	平成30年3月1日より運行を開始したため本事業評価が初回となる。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 【目標】3人／便 【実績】1.51人／便 目標比-1.49人 目標達成にいたらなかった。	沿線の高齢者人口が比較的少なくH29年の調査でも利用者の多くの利用頻度が低かった。旧福祉バスと利用者数はあまり変わらないが、毎日運行となり便数が増えたため、便あたりの利用者数が目標より少なかった。今後も利用状況の把握及び分析を行い利用しやすい運行を目指す。また、引き続きコミュニティバス運行に関する周知や広報に取り組み利用促進に努める。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年 1月10日

協議会名:	みやま市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	本市では、平成20年4月より高齢者や障がいがある方等を対象に、生活交通手段の確保を目的に、福祉バスを運行していたが、誰もが利用可能な生活交通手段を求める意見が市民より多く寄せられていた。そのため平成30年3月より定時定路線型コミュニティバス「くすっぴー号」(市町村有償運送)の運行を開始した。運行にあたっては、路線バスや鉄道など既存の公共交通機関とも連携を図りながら、各地区と医療機関、商店などの生活目的施設、市役所などの公的機関を結ぶ、利用しやすい公共交通ネットワークの形成を目指す。